

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝



「あなたは、伝え上手?ほめ上手?」

1 「伝え上手名人」チェック! 鳴門教育大学・徳島県教育委員会「親も子どもポジティブ支援でHAPPYLIFE」参照

①「〇〇しては、ダメ!」と、してはいけないことだけを伝える。	はい・いいえ
②「〇〇しないと、△△できない」と伝える。	はい・いいえ
③抽象的に伝える。例: ちゃんとしなさい 早くしなさい	はい・いいえ
④すべきことを一度にたくさん伝える。	はい・いいえ
⑤できないときは、何度も同じことを繰り返し言う。	はい・いいえ
⑥常に気になる物が、子どもから見えるところにある。	はい・いいえ

「はい」にたくさんの〇がついた方は、「伝え上手名人」になろうを参考にしよう!

○「伝え上手名人」になろう!

- ①「〇〇しよう」と、やってほしいことを伝える。 例:「廊下を静かに歩こう」
- ②「〇〇したら、△△できる」とポジティブに伝える。例:「あと2問終わったら、遊べるよ」
- ③具体的に分かるように伝える。例「シャツをズボンに入れよう」「あと5分で終わりです」
- ④子どもが聞いていることを確認してから、一つずつ伝える。
例:「〇〇さん、教科書の22ページを開いてください」「1問から5問まで解いてください」
- ⑤できないときは、見本を示したり、少し手伝ったりする。
- ⑥授業中は、関係のない物を見えないようにする。(視覚刺激を減らす 静けさは最大の支援)

2 「ほめ上手名人」チェック!

①子どもをほめるよりも、叱るほうが多い。	はい・いいえ
②子どものほめるところが浮かばない。	はい・いいえ
③子どもが完璧にできたときのみほめる。	はい・いいえ
④しばらく時間が経ってからほめる。	はい・いいえ
⑤結果をほめる。(例:「1位取れてすごい!」)	はい・いいえ
⑥他人と比較してほめる。	はい・いいえ
⑦言葉だけでほめる。	はい・いいえ
⑧子どもの好きなことを3個以上把握していない。	はい・いいえ

「はい」にたくさんの〇がついた方は、「ほめ上手名人」になろうを参考にしよう!

○「ほめ上手名人」になろう!

- ①叱る回数を減らし、ほめる回数を増やす。(きまりを破るなどしたら叱ることも必要)
- ②子どもの当たり前前の行動、いつもより少し頑張ったことを見つけてほめる。
- ③子どもの目標を低くして、今、できていることをほめる。
- ④その場で、すぐ、具体的に伝わるようにほめる。
- ⑤努力している過程を2回繰り返してほめる。例:「書いている、書いている」
- ⑥その子ども自身の過去と比較してほめる。
- ⑦言葉だけでなく、その子に応じたほめ方をする。
例: 頑張り表にシールを貼る、ジェスチャーやアイコンタクト等でほめる。
- ⑧子どもの好きなこと(遊び・食べ物・特技等)を3個以上把握している。



とれたて直送便



「ありがとう」は好きな言葉の第一位 住友生命「あなたを笑顔にしてくれる言葉はなんですか?」アンケート結果より
 ありがとう (48.4%)、大好き (9%)、愛している (2.5%)、頑張っている (2.3%)、かわいい (1.8%) と続く。ありがとうの反対語は当たり前。これぐらいは当たり前と思いを
 してありがとうを言わなくなると、人の縁は切れる。ありがとうと言われた瞬間こそが、「誰
 かの役に立っている」と確信できる瞬間である。小さなことにも「ありがとう」を言おう。